

日本文化概観

苑崇利 编著

文化はライフスタイルである。

文化の基本要素は伝統観念である。

文明は物質的、現実的であり、文化は精神的、理想的である。

文化は文明より優位に立つ。

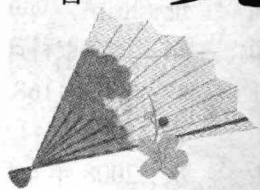
文化は生きている文明であり、文明は死んだ文化である。



Y940

日本文化概观

苑崇利 编著



外语教学与研究出版社

图书在版编目(CIP)数据

日本文化概观 / 苑崇利编著. — 北京: 外语教学与研究出版社, 2008. 4
ISBN 978-7-5600-7464-1

I. 日… II. 苑… III. ①日语—教材 ②文化—研究—日本
IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2008) 第 048343 号

出 版 人: 于春迟

责任编辑: 钟 诚

封面设计: 袁 璐

出版发行: 外语教学与研究出版社

社 址: 北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址: <http://www.fltrp.com>

印 刷: 北京京科印刷有限公司

开 本: 850×1168 1/32

印 张: 10.5

版 次: 2008 年 4 月第 1 版 2008 年 4 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 978-7-5600-7464-1

定 价: 19.90 元

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话: (010)88817519

前言

随着中日经贸交往的不断增长,两国文化之间的交流也在日益发展。广泛深入地了解和理解日本文化,正在成为日语学习者以及对日交流、涉日工作等诸方面人士的必要课题。据了解,不只是大专院校日语专业的学生有兴趣更多了解日本人的生活习惯和日本的风土人情,对学习日语、日本文学、日本文化感兴趣的各行业的人员,也同样希望通过日语平台更直接、更准确地了解和熟悉有关日本文化的历史及现状,以有助于他们的学习与工作。

目前,在本人的视线所及之处,有关日本文化方面的日文教材,可选择的范围还是非常有限,整体概观日本文化的版本就更少有。找不到适当教材,这是笔者在六年多的日本文化课程教学中最为棘手之处,也是编写此教材的动机所在。经过较长时间逐步积累教学资料自编教材、不断总结教学经验和修订构成内容,并且在教学中不断了解到学生对该门课程的要求和希望,听取了有关方面专家提出的宝贵意见和建议,在增添了诸多新资料和数据后,形成了这本《日本文化概观》。

本书是按照教育部高等院校日语教学大纲的指导原则,编入介绍日本文化知识的日文教材,适用于大学3年级以上学生,以及有一定文史哲基础的日语爱好者。在内容的构成方面主要考虑以下几点。首先在结构上,分别突出了日本文化的历史性、知识性、趣味性和资料

性。其次，在具体内容上，主要以介绍日本人的生活方式为主，以概括日本人的思维方式为辅，既不拘泥于思想、宗教等狭义文化的概念，也不是仅仅罗列衣食住等广义文化的知识。

编著的指导思想是从社会实际需要出发，立足于中国人对日本文化似乎了解实则模糊、甚至陌生的实际情况，删繁就简，对兴趣点和知识点进行了筛选和设定，以满足广大读者的需求为目的。

在选材方面，既考虑全面性又考虑到特殊性。比如，围棋是日本人的生活文化中很有代表性的一项文化体育活动。但是，对于中国人来讲，对围棋并不生疏。所以，类似的内容就没有列入。而对日本象棋的相关介绍，平时谈及很少，所以在选材侧重上，通过浅显介绍诸如日本象棋一类的内容，意在引起对日本文化自身特点的更多关注和兴趣，做到突出重点而不是面面俱到。

在具体内容的侧重方面，尽量以日本文化的特点与特征为中心来展开。比如语言文化部分，主要突出介绍和评述的是日本语言中有代表性的文化现象，而不是日语本身。相对来讲，考虑到章节内容的完整性，把一些与语言文化特征相关的参考性的日语内容，以资料的形式附后，以满足读者的多方面需要。

本书的特点是内容的连贯性好，涵盖性广，条理性强，资料详尽充实，分类概括，易于学习和掌握。既可以作为教材使用，也可以成为了解日本文化的必备手册。对内容中的专用词语以及主要历史事件、主要人名和地名等，在首次出现处及重点处均注有注音假名，以便于浏览与查阅。其他相关的历史人物及年代，可参照附录。

本书在编著过程中，得到了日本文教专家蛭原正子老师的大力协助，为本书提出了宝贵的建议。在语言修辞，特别是作为教科书的特

点，在力求通俗易懂、文章风格通篇一致等诸多细微之处，为本书付出了大量的劳动。谨借此方寸表达由衷的感谢。本书的出版，得到了外语教学与研究出版社的大力支持和热忱的帮助，在此一并表示真切的谢意。

由于本人的水平和资料均有限，也由于推敲的时间较为紧促，本书存在诸多不完备、缺点乃至错误之处，敬请读者提出宝贵意见。同时也恳请有关方面的专家学者多多批评指正，赐予宝贵的意见和建议，以助于今后的改进和完善。

作者

2007年10月于北京

前置き

—文化とは—

1. 文化の概念

文化の概念 文化の概念については、哲学、歴史学、社会学、人類学においてさまざまな論議がなされてきた。しかし、現代の社会学においては、文化とは何かと問うことよりも、文化は社会においていかなる作用や機能を果しているかが問題とされるようになっている。

すなわち、文化とは、人間の思考と行為の結果として、人為的に残され、あるいは作られたすべての有形、無形の事物であるという説である。米英学者の観点は、文化は人類によって作られた精神文明と物質文明の総和であるというものである。

文化の意味 文化という言葉は、世の中が進歩し生活水準が高まっている状態や、人類の理想を実現していく「精神の活動」を意味する。人類、民族および地域的な信仰、礼拝にかかわり、生命への神秘感、生活の無常観にかかわる精神的存在を指す場合がある一方、「弥生文化」のように「生活様式」を総称する場合もある。社会科学の諸分野では、第二の意味で「文化」という概念を指すのが普通であるが、この意味における「文化」についても定義は多様であり、そのなかから時代的な変化も見られる。

広義文化と狭義文化 文化は、世の中が進歩し文明になるバロメーターである。文化は人間社会において共有・伝達される行動・生活などの状態、または精神活動によって生み出された宗教・芸術・道徳などを包括する。

広義では、人間の作った物質文明と精神文明の総合が文化である。狭義では、文化は人類の精神活動の産物であり、純粹精神創造の成果である。たとえば、哲学、文学、芸術、道徳、宗教、風習などの内容を指し、一種の観念形式である。個別の文化はそれぞれ独自の価値を持ち、必ずしも高低・優劣の差はない。

2. 文明の概念

文明の意味 文明とは技術・制度・物質などが高度に発達した状態を言う。文化が精神活動を重視し、個々の社会全体について言われるのに対し、文明は物質面を重視し、より大きな時代・地域などにわたって成り立った状態を言う。文明の概念は時代、地域、産物などによって分類されている。ルネサンスがなければ、欧州の工業文明がなかったといわれるように、文明は、ある段階における人類の知恵と精神的産物の総合レベルであり、これに基づいてできた物質の発明と創造を指す。このような意味から言えば、文明とは、精神と物質の相互促進というプロセスにおいて「化学的」融合作用のような、相互転化を通してもたらされた結果である、と言えるのではないだろうか。

文明の概念分類

時代——古代文明・現代文明、農耕文明・工業文明

地域——古代四大文明（黄河文明…）、欧州文明…

産物——青銅器文明、蒸気機関文明、計算機文明…

人文——言語文明、文字文明、儀礼文明、生活文明…

性質——物質文明、精神文明

文明と文化定義についての名言

文化はライフスタイルである。

文化の基本要素は伝統観念である。

文明は物質的、現実的であり、文化は精神的、理想的である。

文化は文明より優位に立つ。

文化は生きている文明であり、文明は死んだ文化である。

3. 文化認知の違い

文化は、ある特定の社会で作られた精神と物質の総合的成果である。特に学術、芸術、宗教などの精神文化を指す。その中核となるのは人間の認識と行為、すなわち、価値観と方法論である。そのため、学者が学術的に認知する見識に相違があるほか、世界観、価値観の違いによって、各民族、各地域においても特定の心理的、慣習の違いによる認知を持っているわけであるから、文化についての理解に相違が生じてくるのは当然である。

これまでの中国では、文化の有無は教育暦があるか、または識字程度はどの程度かによって判断されていたようである。たとえば、

個人的な登記・登録や申請表に「文化程度」欄があり、それを記入する場合、そこに「高校」とか「大学程度」とかなどを書くのが一般的であった。すなわち、どの程度、教育を受けたかによって、文化レベルの高低を判断したのである。昔の科举制度の影響もあり、特に昔は農村地域は教育が普及していなかった歴史もあったから、文化というと現在でも、ほとんどの人はこのようなイメージを持っているのではないかと思われる。

一方、アメリカにおいては文化のイメージは、宗教によって教化されたレベルはどのくらいか、信仰に基づく道徳心が高いかどうか判断の基準になるようである。日本では、文化に対する認知は、ほとんど余暇生活の内容にかかわっているようである。たとえば、カルチャー・センターの活動内容は、茶道、華道、書道、舞踊、音楽などの趣味。外国語、または料理関係やスポーツ関係など、ほとんどは個人技能についての稽古事である。日本で自己紹介をする場合、自分の趣味・愛好と氏名、出身地など同時に紹介する。この習慣からも、日本人の文化観がうかがえる。すなわち、個人の趣味への重要視を通じて、その人のライフスタイルを表すことになったのではないかと思われる。

総じて言えば、人間生活や社会生活の中で培われる文化観は、国や地域・民族などによって、重要視される文化的要素は異なるということである。例えば、中国は教育レベル、アメリカでの宗教信仰、日本での趣味重視、フランスでの芸術愛好傾向、イギリスでの身分重視などである。

それによって、人間の文化を定義するための基準も違っている。

つまり、文化認知の相違によって、一言で文化とは何かと言うのは確かに難しいのである。

4. 文化の政治的意味

世界に文化の多様性が存在しているからこそ、それぞれの文化の生命力が旺盛になり、文化の精神面も物質面も多種多彩になるのである。ところが、文化認知の違いをマイナスに利用する例も少なくない。政治的な示唆、利益を意図とする非科学的な意識や偏見は、文化の概念と認知にマイナスの影響を与えたこともあった。

かつて帝国主義時代には、国土・勢力の拡大を目指し、経済的利益を図るために、世界の文化を、「文明、半開、未開」と3段階に分けて認識した「学説」があった。さらに、列強は「弱肉強食」、植民地主義、「未開地」への改造など「未開征服」のような論理で、いわゆる未開世界への侵略行為を、正当化・美化するようになった。武力を使って「未開地」への略奪・殺戮などの行為は、文化・文明と言えないどころか、これこそ人類の最も原始的な野蛮な行為ではないかと問われるのは当然である。

現代では、国家、民族、政党、宗教団体などのイデオロギーの違い、歴史・伝統・風習などによる文化遺産、文化現象、文化概念が大別されて認識されている。このような世界では、個別の文化認知を基準にして他方に何らかの要求をすれば、政治、外交、経済に絡んだ矛盾が生じ、甚だしくは軍事行動にまで発展してしまうことは、現代でも珍しくない。このなかで、政治的世界一極論によって派生した「グローバリゼーション」の文化観とか、宗教衝突不可避論と

かは、「未開征服論」と同じく危ない論調であろう。なにはともあれ、現代は、個人の関係においても、国や民族や宗教の間でも、価値観、イデオロギーの違い、文化認知の相違などの現実を認め、互いに尊重すべきである。この意味でいう文化は何かという課題は、それを究明し、統一することではなく、どのように共に学び合い、どのように交流していくべきかという学問であろう。

目次

前置き—文化とは—

1. 文化の概念.....	IX
2. 文明の概念.....	X
3. 文化認知の違い.....	XI
4. 文化の政治的意味.....	XIII

第一編 日本文化の形成

一、日本文化の起源

1. 日本民族の起源.....	1
2. 呪術とアニミズム.....	2
3. 神霊信仰と儀礼文化.....	3
4. 原始的な社会関係の形成.....	4
5. 神話から神道へ.....	5

二、大陸文化の伝播

1. 稲作の伝来.....	14
2. 大陸文化との接触.....	16
3. 唐文化の吸収.....	19
4. 宋・元・明文化の吸収.....	21
5. 儒家学問の研究と摂取.....	25

三、西洋文化の影響

1. 鉄砲伝来と南蛮貿易	42
2. 禁教・鎖国と文化の成熟	48
3. 蘭学の伝来	52
4. 開国・立国理念と西洋の影響	59
5. 幕末、明治初期の代表的国際観	64

四、日本文化の特徴

1. 国風文化の興隆と特徴	78
2. 江戸文化普及の特色	80
3. 日本的な文化の融和的性格	81
4. 文化形成の人文的要素	82

第二編 日本の文学と芸術

一、言語文化

1. 日本語に見られる重層文化	93
2. 言語表現の社会的特徴	95
3. 「待遇表現」の特徴	97
4. ことだま 言霊	98

二、文学

1. 文学の時代特徴	112
2. 詩歌の形式と特色	119

三、伝統芸能

1. 三大演劇.....	134
2. 舞踊.....	140
3. 伝統芸能.....	141

四、美術と邦楽

1. 日本画.....	149
2. 邦楽.....	154

第三編 日本人の生活と文化

一、衣食住

1. 和服.....	161
2. 和食.....	163
3. 和風住宅.....	166

二、茶道・華道・書道

1. 茶道——茶の湯.....	183
2. 華道——生け花.....	186
3. 書道.....	189

三、武道と相撲

1. 日本の伝統的武道.....	194
2. 中国伝来の武道.....	199
3. 国技としての相撲.....	202

四、余暇生活と娯楽

1. レジャー産業の動向	207
2. リラックスの遊び	210

第四編 日本の伝統文化と民俗

一、冠婚葬祭と礼儀作法

1. 冠婚葬祭	223
2. 礼儀作法	226

二、年中行事と慣習

1. 祝日	233
2. 主な年中行事	237
3. 地方の有名な祭り	242
4. 伝統風習	245

三、民風民俗

1. 五節句	256
2. 無形民俗文化財	259

四、景観と名所

1. 文化財と景観	266
2. 文化遺産と名所旧跡	269

付録

文化遺産・人文資源一覧.....	281
日本人ノーベル賞受賞者一覧.....	285
天皇系譜.....	289
専制、摂関（最盛期）氏族一覧.....	295
鎌倉・室町・江戸幕府将軍一覧.....	297
歴代内閣総理大臣一覧.....	302
西暦・日本暦対照表.....	315
干支〔えと〕表.....	317
参考文献.....	318